

子どものための ピアノ・オルガン 体験レッスンマニュアル

本マニュアルは、主にお子さまを対象とした、体験レッスンに関するご提案の一例です。
特約店様や講師の皆さまのご事情にあわせてご利用ください。

ローランド・ミュージック・スクール

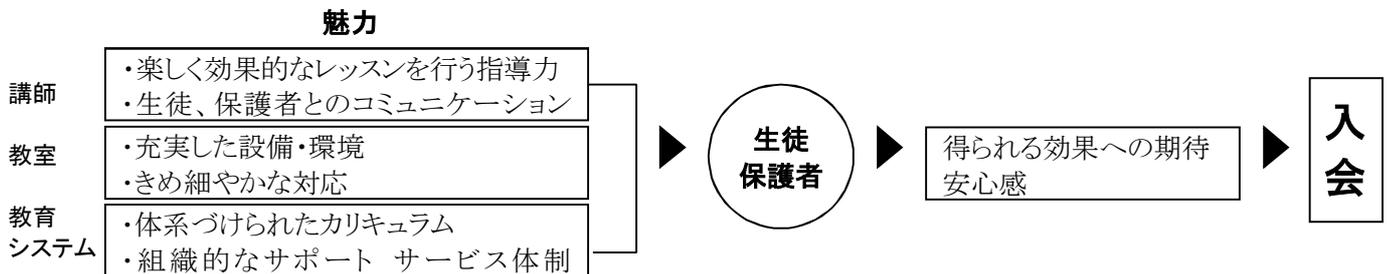
1. はじめに

生徒さんの入会を促すため、体験レッスンは大変効果的な手段です。それは、教室や講師、教育システムの持つ魅力を、実体験を通じて直接生徒さん・保護者の方に訴えることが可能だからです。

本マニュアルでは、「ピアノ科ベーシックコース」「オルガン科ベーシックコース」の体験レッスンについて説明いたします。このマニュアルをもとに、皆さまの教室にあった体験レッスンを実施していただき、その結果、ひとりでも多くの生徒さんに、レッスンを通じて音楽の楽しさを感じていただけるようになれば幸いです。

2. 体験レッスンの目的

レッスン、面談といった実体験や直接のコミュニケーションを通じて、受講者・保護者の方々に、教室に通うことの魅力を伝え、入会につなげます。



3. 体験レッスンのポイント

- (1)体験レッスンを多くの方に知っていただき、ご参加いただくこと。
- (2)生徒さんや保護者が求めているレッスン内容を提供し、満足いただくこと。
- (3)なるべく、体験レッスン当日に入会の成約をいただくこと。

4. 各コースの特徴とねらい

(1)ピアノ科ベーシックコース

ピアノ科の子ども向けコースです。もっとも多くの生徒さんを獲得できるコースであるため、メーカーを問わず、競合する教室が数多く存在します。このコースで確実に入会につなげるには、伝統的なピアノレッスンの基本を踏まえた上で、電子楽器を活用した楽しいレッスンの魅力を伝える必要があります。つまり、教育的効果が高く、かつ楽しく音楽の醍醐味を味わってもらえるレッスンを行うことが重要です。

(2)オルガン科ベーシックコース

オルガン科の子ども向けコースです。このコースの特徴は、十分な両手演奏の訓練を積んだあと、なんともいっても両手両足を駆使して多彩な音色を操る「オルガン」という楽器の魅力を味わえるところにあります。体験レッスンでは、ピアノ等他の楽器にはないオルガンの楽しさを伝えると共に、レッスンで使用する〈ミュージック・アトリエ〉の、機種相互の一貫した操作性やデータの互換性等を説明し、お求めやすい価格の導入機種の紹介も兼ねながら楽器の購入に対する保護者の方の不安を取り除くことも大切です。

5. 申込みの受付

必要に応じて参加者名簿(添付資料参照)をつくっておくと良いでしょう。
必ず聞いておく項目は、「生徒さんのお名前(フリガナ付き)」「学年」「電話番号」「住所」「希望コース」「鍵盤経験」「希望日時」です。

- (1)特に大切なのは、「体験レッスンの動機」や「鍵盤楽器の経験」です。「何をレッスンされたいのか」「どんな曲が弾きたいのか」、生徒さん・保護者の方のニーズをよくお聞きします。生徒さんとのコミュニケーションにもなりますので、ていねいに正確にお聞きしましょう。それに基づき、最も良い「コース」「講師」「教室」「時間」をご案内します。
- (2)生徒さんと保護者、両方のニーズをとらえることが大切です。
- (3)「鍵盤経験」がある生徒さんには、前回のレッスンが「いつ頃」「どこの教室で」「どのくらいの期間」「どのような教材・レッスン」「どのような雰囲気」だったかをできるだけお聞きして、その良さを引継ぎ、不足面が補えるような体験レッスンにしてください。
- (4)体験レッスンの時間は、入会促進やシステムの説明などがあるため、少し余裕をみて最低でも 45 分ほど取っておくと良いでしょう。
- (5)申込時には、体験レッスンカルテ(添付資料)などを利用し、なるべく多くの項目を聞いておきましょう。
 - 確認するタイミングを考慮した上で、正確に聞くこと。
 - 特に生徒さんの名前は、間違えないよう注意すること。
- (6)できれば次の情報も事前に確認しておくとう便利です。
 - 他の参加者や生徒さんとの関係(紹介の場合など)。

6. 当日までの準備

当日スムーズに運営できるよう、前日までに十分な準備をしておきます。
体験レッスンを希望される方は、以前より教室を外から眺めていることもありますので、普段から「明るい雰囲気」と「清潔な教室」のイメージづくりが大切です。

- ①申し込みのあった方には必ず前日に電話をし、明日の体験レッスンの参加の確認をします。
- ②レッスン室や待合室は整理整頓し、きれいに掃除しておきます。
- ③当日の必要物を確認しておきます。

準備物・配布物

- | | | |
|---------------------------|-----------|-------------|
| ・楽器(ピアノ、デジタルピアノ、オルガン) | ・生徒用教材見本 | |
| ・ミュージック・プレーヤーとミュージックデータ | ・体験用教材 | |
| ・ローランド・ミュージック・スクールのパンフレット | ・受講者アンケート | |
| ・メンバーズクラブ入会申込書 | ・月謝(基準)表 | ・領収証 |
| ・紹介記念品 | ・入会記念品 | ・入会コースの教材見本 |

以下のものがあるとさらに便利でしょう。

- ・受講カード(一日体験レッスン用) = 生徒になった気分を味わっていただく。
- ・受講アンケート(カルテ) = レッスン後の進捗指導がやりやすい。
- ・体験レッスンメニュー(当日のプログラム) = 何をやったかを理解していただける。

7. 当日の流れの例

当日は、受付・体験レッスン講師・面談係が必要です。事前にそれぞれの役割を確認しておきましょう。

(1)受付

受付カウンターに「受講カード」を並べておきます。生徒さんと保護者の方が来たら、元気に温かくお迎えし、明るい教室のイメージをつくってください。

(2)体験レッスン

①教室マネージャー挨拶:[1分]

生徒さん・保護者の方に運営責任者としてご挨拶し、安心感を与えてください。

②担当講師紹介:[1分]

マネージャーが紹介します。

③体験レッスン:[20~30分]

(P4,P5の体験レッスン例を参照)

●生徒さんの求めている傾向で、年齢に合ったものを選択してください。

●時間内にある程度できるようになり、上達の効果が見えやすいものにします。

●保護者の方にも充分満足していただけるよう、初めは保護者の方も一緒に参加していただきながらレッスンをすすめます。

●レッスンの最後は、取り上げたすべての項目を振り返り、保護者の方が内容を再度思い起こし、「ずいぶんやった」と充実感が味わえるようにしてください。

●レッスンのねらいや将来について(この先にどうつながるか)も保護者の方に説明してください。

●使用教材の説明も、教育的見地から担当講師がする方がよいでしょう。

④体験レッスン記念品:[1分]

担当講師または主催者から渡す。

(3)運営システム説明(進路指導)(面談者:講師とマネージャー)

机といす、筆記用具を用意し、保護者の方と落ち着いて面談できる環境を設定します。生徒さんからは楽しい言葉を引き出すことが大切です。「楽しかったね」「よくできたね」「レッスンにきてね」と担当講師から声をかけて差しあげてください。また、落ち着かない生徒さんには、「らくがき帳」などを用意しておく、スムーズにお話ができるでしょう。

①運営システム説明:[10分]

●レッスン曜日・時間、月謝、使用教材などをご案内します。

●入会について「どうされますか?」と確認するのではなく、自然に入会手続きに促すことができるよう講師といっしょに明るい雰囲気でご接してください。

②体験レッスンは、保護者の方にとっては「良いレッスンが見られる」機会ですが、教室にとっては「入会見込み者に直接入会へのアプローチができる」絶好の機会です。

③とにかく保護者の方の気持ちがホットなうちに、入会もしくは予約まで全力をかたむけてください。

④「この生徒さんを、どのコースへ入会させるのか」面談者自身がコース体系をよく把握し、そこへ向かってお話をすすめてください。

(4)体験後のフォロー

面談時に検討という保留者に対し、後日訪問や電話で入会をフォローします。

①体験レッスン終了後に全員でミーティングを開き、入会検討者へのフォローの方法(曜日・時間・コースなど)について打ち合わせします。

②後日フォローする人と面談者が異なる場合、面談時の内容をしっかり引き継いでおきます。できるだけ担当講師がフォローするのがベストです。始めはフォローすることはなかなかたいへんですが、最後まであきらめずに、熱意と誠意をもってお誘いしてください。

■ピアノ科ベーシックコース体験レッスン例

「プチ・エトワール」「プール・プチ」「ピアノとわたし」を使って体験レッスンをしてみましょう。

他教室との差別化のポイントは、「リリック指導を活用した鍵盤導入法」と「デジタルピアノやミュージックデータを活用した楽しいレッスン」です。ただし、始めから教室や先生のやり方だけを押しつけるのではなく、初めてのレッスンでは、保護者の方のニーズがあればよくお聞きして、バランスをよく考えてみてください。

1. ごあいさつ(レッスンスタート)

- ①生徒さんに「こんにちは」とごあいさつします。
『こんにちは』(生徒さんの目を優しく見つめながら語りかけてあげてください)
- ②生徒さんの両手を[♩ ♩ ♩ ♩]のリズムで縦に揺らしながら、「こんにちは」とごあいさつします。
- ③タンバリンやスティックで[♩ ♩ ♩ ♩]のリズムを打ちながら、「こんにちは」とごあいさつします。
- ④右の中指で好きな鍵盤を弾きながら、「こんにちは」のごあいさつをします。いろいろな鍵盤の位置で、高い位置(あかちゃんのこんにちは)、低い位置(おとうさんのこんにちは)、白鍵、黒鍵、速く、遅く、強く、弱く弾いてみましょう。
- ⑤最終的には第一線ミで弾いてみましょう。

2. おへんじ

- ①右手の3と2「ミーレーミ」で、(生徒さんの名前を言って(歌って))みせます。「あーやかちゃん」
- ②生徒さんは「はーあーい」とおへんじします。
- ③今度は生徒さんに弾かせてあげましょう。その時は「せーんーせい」と言い(歌い)ましょう。
- ④よくできたらいろいろなポジションで弾かせてあげましょう。長2度の音程は教えてしまうのではなく、生徒さんに探り弾きしてもらってください。

3. ピアノ演奏 『はなび』(プチ・エトワール3巻 P,36)

- ①花火をイメージした二つの音型を弾きます。
☆シシラの音を、両手の人差し指で“ぱちぱち、ぱちぱち”という感じで弾きます。
☆黒鍵の二つの固まりと三つの固まりを、グーにした両手で“ぱーん”という感じで弾きます。
- ②しっかり弾けるようになったら、先生と連弾をしてみましょう。
- ③最後にミュージックデータと合わせて、イメージを膨らませましょう。

4. アンサンブル

- ①生徒さんがどんな曲でも片手で弾ける曲がある場合は、先生が伴奏し連弾してみましょう。
生徒さんのペースに先生が合わせることはとても大切です。
- ②デジタルピアノやミュージック・プレーヤーを使ってアンサンブルもしてみましょう。
☆例えば、『こま』、『ハッピーバースデイトゥユー』(プール・プチ)、『ちょうちょう』(ピアノとわたし1)、『ねこふんじゃった』(ぴあのぱれっと2)などで、ミュージックデータの調やテンポを調整してみましょう。

5. 模範演奏・音楽鑑賞

生徒さんと保護者の方に先生の演奏を聴かせてあげましょう。
☆ソロ/アンサンブル、クラシック/ポピュラーは生徒さんや保護者の方のリクエストを聞くといいでしょう。
熱演(テクニックだけではありません)を聴かせ、実力のある先生ということをアピールください。

6. レッソンのまとめ・入会のお誘い

『レッスンのあとで』 ☆今日のレッスンを振り返る。
「〇〇をしたね。〇〇もしたね。」「楽しかったね!」「またきてね!」「先生まってるね!」

7. さようなら(締めくくり)

生徒さんと向かい合って「さようなら」をして終わらしましょう。レッスンは「もうすこしやりたいな」というところでやめるとよいでしょう。

8. 教材・システムの説明

- ①該当する教材(教本・教具)、を説明します。
☆状況を見て、保護者の方にも弾いてもらってもいいでしょう。生徒さんの興味がさらに高まります。
- ②ピアノ科のシステムや、体系化されている将来のカリキュラムも簡単に説明します。
- ③演奏オーディションなどの紹介をします。

■オルガン科ベーシックコース体験レッスン例

1. ごあいさつ

「こんにちは。今日はお母さんときてくれたのかな？〇〇ちゃんのお母さんは、どこかな？」
「〇〇ちゃんは、どんな曲が好き？元気のいい曲？それとも静かなやさしい曲かな？」

2. 生徒さんが答えにくそうにしていたら、

「ここにある楽器、何か知ってる？オルガンって言うんだよ。
ここからいろんな音、楽しい音が出てくるんだよ。」
「少し聴いてみようか。」

3. ジュエリー1巻から、「大きなタイコ」(P,15)をのページを開き、ミュージックデータを準備します。

「大きなタイコ」って、知ってる？歌ったことあるかな？最初にこのオルガンが演奏してくれるから、〇〇ちゃん、聞いてあげてね」

4. 今度はミュージックデータのメロディーパートをつけて、先生が歌ってあげましょう。

ひととおり聴いたら、生徒さんと一緒に手をたたきながら歌ってみましょう。
「大きなタイコドーンドーン(**f**)小さなタイコトントントン(**p**)」

5. 大小の表現が出来なくても、精一杯誉めてあげましょう。

「じゃあ、つぎは、少し遅くして、〇〇ちゃんが音をだしてみようか」
「最初に先生がやってみるね。」

6. ミュージックデータに合わせて、歌いながら指1本で弾いてみせましょう。

「どう？いろんな音が出るんだよ。たとえばこんな音も。」

7. いま弾いた音と違う音色でワンフレーズだけ弾いてみてから、

「こんどは〇〇ちゃんの番だよ。先生と一緒に弾いてみようね。」と言い、手を持ってあげながら指一本で弾いていく。「さんはい〜」

8. 実際には先生が弾いていますが、目いっぱい誉めてあげましょう。

「お母さま、いかがですか？オルガンにはピアノとはまた違った楽しさがあります。いろんな音色が出ますし、1台でリズムに合わせて色々な曲がたのしめます。ミュージックデータを活用すれば、曲のイメージもつかみやすく、自宅での練習もとてもやりやすくなってきます。またオルガンは、鍵盤も軽くできていますので、指先への負担が少ないのも大きな利点です。」

9. 将来的に、こんな演奏ができるようになるということを示す為に、1曲身近な曲を演奏してあげるといいでしょう。

※まとめとして、「今日は楽しかった？また、先生と色々な曲を弾いて楽しもうね。また来てね！」

※オルガン科のシステムについての概要や演奏オーディション制度など、イベントについての紹介もしておくといいでしょう。設備があれば、教室発表会のビデオなどを見ていただき、説明するとより効果的です。

オルガン訴求のポイント

- ①基本的に持続音なので、ピアノのように指先をひんぱんに動かさなくても、初期の段階からレベルに応じた演奏を楽しむことができる。
- ②いろんな音色で奏でることができるため、飽きることなく練習ができる。
- ③ミュージックデータを活用することによって、曲のイメージトレーニングがしやすく、スムーズに練習に入ることができる。
- ④オルガンの鍵盤は軽く弾きやすい為、小さなお子さまの指にも負担が少なく、正しい手の形をマスターしていくことができる。

体験レッスン参加者名簿

(年 月 日)

担当講師: _____

No.	フリガナ 参加者のお名前	男・女	生年月日 学年	コース	電話	住所	日時
1	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	
2	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	
3	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	
4	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	
5	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	
6	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	
7	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	
8	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	
9	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	
10	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	
11	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	
12	フリガナ	男・女	H.	ピアノ ・ オルガン		〒	

(年 月 日)

体験レッスン カルテ

お子様	(フリカナ)	様	〒
	年 月 日 生まれ		
保護者の方	(フリカナ)	様	TEL. ()
	続柄:		

■ 今までに鍵盤楽器の経験はありますか。

- 初めて
 ある(期間は? 年ヶ月)

■ 保護者の方が教室や講師に期待される順番をつけてください(該当しない場合は空欄で結構です)。

- a. () 楽器を弾けるようにする
b. () 総合的な音楽的能力を身につける
c. () 将来プロとして音楽に携わることのできる能力を身につける
d. () 創造力・集中力・思考力などの人格や能力の育成
e. () その他

■ 体験レッスンを希望されるコースはありますか。

- ピアノ
 オルガン
 特に指定なし

■ レッスン希望される曜日・時間はありますか。

- () : ~ :
 () : ~ :
 () : ~ :

■ その他、お気づきの点がございましたらご記入ください。

< 教室記入欄 >

体験レッスン日時 年 月 日() : ~ :
コース: 担当講師:

ローランド・ミュージック・スクール
ROLAND MUSIC SCHOOL

(2016年1月改定)